

自己評価結果公表シート (2021 年度)

学校法人 三宅学園 ふなお幼稚園

1. 本園の教育目標

家庭的な雰囲気とゆったりとした環境のなかで、キリスト教の愛と奉仕の精神を基として、①自分から挨拶する子ども、②呼ばれたら「ハイ」と返事が出来る子ども、③行儀の良い子ども、④思いやりのある子ども、⑤創造性・感受性豊かな子ども、に育てる。そのために職員一人ひとりが⑥子どものお手本であることを常に意識しながら、言葉遣いや立ち居振る舞いに気をつけて保育に取り組む。また 子ども・保護者・職員が共に育ち合う関係を築けるよう、連携を密にしながら日々の教育保育に取り組む。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもの心身の健やかな成長のために、前年度の反省を生かしながら以下について取り組む

【指導計画の見直し・改善】

- ・新型コロナウイルス感染対策をしながら、出来ることと出来ないことを整理して、子どもも保護者も安心できる教育保育を実践する。
- ・体操指導委託先の方針変更により、夏のプール指導は実施しないことになったので、プール指導が必要かどうかも含め、代替案を検討する。
- ・園庭のポタジェや貸農園（浜寺元町農園）で子どもと一緒に季節に応じた野菜を栽培・収穫し、自然の不思議さに目をみはる感性を育むと共に、食への関心を深める。
- ・新型コロナ感染防止のため、行事が中止になることが多かったので、感染対策をしながら実施可能な方法を考え、実行する。

【職員の共通理解と業務効率の向上】

- ・職員のインカム使用について、短時間で確実に伝わるような話し方を統一・練習する。
- ・登降園管理ソフトやメール連絡網（マチコミ）の効率的な使い方を習得する。

【家庭との連携】

- ・昨年好評を得た保護者の『保育参加』を今年度も継続実施する。
- ・保護者連絡の確実性、迅速性を高めるためにマチコミ（一斉メール）だけでなく、LINEでも連絡が取れるように、園のLINEへの登録を促す。

【安全管理】

- ・教育保育環境の安全性の向上。
- ・地域の避難訓練（津波避難訓練）が実施されなくなったので、園独自で津波避難訓練を計画・実行する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
【指導計画の見直し・改善】	<ul style="list-style-type: none"> • 緊急事態宣言中の音楽リズム指導（外部委託講師による）は、保育室に i-pad を設置し、オンライン（FaceTime）で実施した。また鍵盤ハーモニカは飛沫感染のリスクが高まることから、音階楽器指導は、木琴や電子キーボードを使用して行っている。 • 園外保育（5月の天王寺動物園行と6月のお花摘み、プラネタリウム見学）は新型コロナ感染が収まっていないため中止した。 • 貸農園では昨年11月から栽培しているエンドウやオオムギを4～5月に収穫した。エンドウは園児全員に分けて持ち帰らせ、大麦は保護者ボランティアと一緒に刈り取り、3週間ほど乾燥させた後、園庭で焙煎、煮出し麦茶にしてみんなで味わった。麦茶は昨年度の卒園生にも卒園アルバム引き渡し時（6月）に飲んでもらった。大麦収穫後はサツマイモの苗を植え、刈り取った麦わらはマルチとして再利用し、10月にお芋ほりをすることができた。め組（1・2歳児）も園庭に小さな畑を作ってサツマイモの苗を植え、小さいながらも10月に収穫することが出来た。昨年同様に貸農園では11月から大麦（よつば組が種蒔き）とエンドウ（みつば組が苗植え）を栽培している。 • プール指導は、クラス委員会及び職員会議で実施して欲しいとのことだったので、外部委託先を調査・交渉し、8月後半からバス送迎つきで3回、みつば組とよつば組がEスイミングスクールにて、指導してもらうことができた。
【職員の共通理解と業務効率の向上】	<ul style="list-style-type: none"> • 職員にインカムでの話し方（わかりました→了解 etc.）を周知し、短時間で簡潔に伝えるよう努めた。 • 職員専用のグループLINEで翌日の予定や子どもや保育に関する些細なことなど、文字だけでなく、写真や動画を使って情報を共有している。 • 月一回、土曜日に正職員全員参加で予定や方針

	<p>を話し合うとともに、職員同士の親睦を深め、意思統一を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 昨年新しく導入した園児管理ソフトを使って、登降園管理や預かり保育の時間管理、保育料等請求業務が出来るようになってきた。 • メール連絡網（マチコミ）のアンケート機能を使って、プール指導の事前泳力調査や運動会の参加人数、こどもカーニバルの感想など、迅速に集計することができた。
【家庭との連携】	<ul style="list-style-type: none"> • 密を避けるために、春の保護者総会と1学期末の保護者会は ZOOM を使ってオンラインで実施したが、2学期末はコロナ感染が落ち着いてきたので、クラス別に対面で実施し、子どもの歌や暗唱を生で聞いてもらうことが出来た。 • 保護者の保育参加は、事前に服装や持ち物などを伝えるとともに、参加内容を4段階のお手伝いに分けて登録してもらうようにした。 • 2学期終業時に、園で乾燥保存していたトウモロコシ（ポップコーン用）とオオムギを、レシピをつけて全員に配布した。それと一緒に干し柿（卒園児保護者より頂いた柿を園で干したもの）も配布し、教育保育方針への協力に対する感謝の気持ちと、分かち合いの精神を伝えた。
【安全管理】	<ul style="list-style-type: none"> • 防災指導計画に沿って、交通安全教室や月一回の避難訓練を実施し、子どもの安全意識の向上に努めている。 • 今年度新たに各クラスに非常用の持ち出し袋を配備し、不測の事態に備えている。 • 日頃から園内の安全点検をして、子どもがケガをしないように安全対策（学期ごとに、クラスでオリエンテーション実施・・・安全な遊び方や遊具の使い方説明、危険があれば即排除、ケガをした際の記録・伝達・原因究明・再発防止策など）を講じている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 緊急事態宣言中は、なるべく外部の人と接触を避けるために、音楽リズム指導および英語指導は、保育室に i-pad を設置し、オンライン（FaceTime）で実施したが画面が小さくて見難かったので、液晶テレビに接続するケーブルを購入し、少しでも見やすい環境になるよう努めた。
- 音階楽器指導は、足で踏むと音がるミュージックパッドや、みつば組（4 歳児）は木琴、よつば組（5 歳児）は電子キーボードを主に使用して行った。
- 当園では子どものマスク着用に関して、管理が困難であること、汚れたり濡れたりしてかえって不衛生になること、気温が高い時は熱中症になる恐れがあること、酸欠になって脳や骨の成長が阻害される恐れがあること、等の理由から、保護者の判断に任せている。すると、ほとんどの子どもはマスクを着ずに園生活を送ったが、園内でクラスターは発生していない。3 月に開催した音楽会の後に一時的に感染拡大がみられたものの、幸い全員重症化することなく回復した。この時の反省から室内で集まる時は歌うことはやめて、十分な換気をするように心掛けている。また給食時には、子どもを分断してしまうパーティションは設置せず、飛沫がかからない横並びで座れるように、補助金を利用して二人掛けの机を園児数分購入した。そして、なるべくお友達の顔が見られるように机を円周に配置して黙食で喫食するとともに、保育者は職員室で食べるようにして、感染防止に努めた。
- 貸農園で収穫したオオムギを脱穀・焙煎し麦茶にして味わうことや、サツマイモやトウモロコシ、豆類を、植え付けから水やり、収穫、食べるまでの体験を通して、自然の不思議さや自然の恵みを直に感じる事が出来た。引き続き、農園でエンドウ豆とオオムギを栽培し、1 月によつば組が『麦踏み』を体験した。オオムギは 5 月頃に収穫予定。
- 夏のプール指導は 3 回のみであったが、E スイミングスクールで指導してもらうことができ、来年度の指導計画に役立てることが出来た。
- 1 年で最も大きな行事であるクリスマス祝会は、今年度も新型コロナ感染対策のため、参加人数を制限（よつば組の保護者 1 名ずつ）し、それ以外は ZOOM を使ったリアルタイム配信で開催した。当日の様子はビデオに録画し、後日 DVD にダビングして全員に配布した。
- インカムやラインを有効的に使用することで、職員同士の情報共有が迅速かつ確実に出来ている。また月一回の土曜会議では、時間を有効に使って保育の準備をしたり、教育保育方針を話し合ったり、有意義なものとなっている。
- 園児管理ソフトや一斉メールアプリ（マチコミ）の使い方の習熟度が増し、業務効率が向上した。
- 保護者来園行事について、新型コロナ感染拡大期にはオンライン、感染が収まってきたら従来どおり園に来てもらうなど、感染状況を見ながら臨機応変に対応できるようになってきた。但し、新入園児保護者へ ZOOM の使い方説明は引き続き行っていく必要がある。
- 昨年度好評を得た『保育参加』は、今年度も継続実施することによって、保護者も経験者

が増え、落ち着いて子どもの様子を見てもらうことが出来てきたとともに、保育方針への理解も深まったと感じている。

- 月一回の避難訓練をした際に、避難する時の『おはしも』のお約束（おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない）を毎回唱和しているので、年中年長の園児はほぼ全員憶えて理解している。
- 園から徒歩5分の場所に用具倉庫として借りているガレージが立ち退きになったことと、隣地住人のかねてからの希望もあり、園地西側の土地と家屋を購入し、駐車場および用具倉庫として使用することになった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
【指導計画】	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスはエアロゾルによる感染の可能性が高いことから、CO2 センサーの値を確認しながら、お部屋の『換気』をこまめにする。 • 歌を歌う際は、クラス単位では換気をした室内で対面にならないよう円周に子どもを配置し、2m以上の距離を確保すること、お誕生会など大勢が集まる場所ではハミングで歌うことを徹底し、感染防止に努める。 • 体操は、指導技術の向上に努めるとともに、子ども一人ひとりの技の達成度を記録・把握し、その子が出来る環境設定と個人指導を続けていく • いろんな野菜の栽培方法を学びながら、貸し農園や園内の畑で子どもと一緒に季節の野菜や花の栽培をしていく。 • プール指導では、子どもが水に慣れ、泳いでみたい、上手に泳ぎたい、と思えるように、指導回数を増やしていく。
【職員の共通理解と業務効率の向上】	<ul style="list-style-type: none"> • インカムやLINEでの情報共有は出来てきたが、インカムに集中しすぎて、子どもから目を離してしまう時間が長くなる恐れがあることから、インカムを使用する時間帯を決めるなど対策を講じる。 • 園児管理ソフトを使いやすいように仕様変更を打診しているが、なかなか応じてもらえないので、今後も言い続けていくと共に、現状の仕様でも業務の効率が上がるように、使い方の理解を深め、早めのチェックをしていく。

	<ul style="list-style-type: none"> • 新たに購入した家屋（別邸倉庫）を有効に活用し、業務効率の向上を図っていく。
【家庭との連携】	<ul style="list-style-type: none"> • オンラインも便利だが、やはり生の子どもの姿が見たいとの声があるので、集まる人数を減らすためにクラス別に集まるなど、三密を避けて開催できる方法を考え、実行する。 • スマートホンを持っている保護者には園のLINEに登録してもらい、迅速で確実に連絡を取り合い、教育保育活動や子育てに関する情報共有や連携強化に努める。 • 保護者の保育参加を継続して実施していくと共に、みんなで集まりたいとの声もあることから、クラス別に集まる日を設ける。
【安全管理】	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の避難訓練がコロナ禍で無くなってしまったことから、園で津波避難と引き渡し訓練をする予定であったが、コロナ感染が収まっていないことから、園内での避難訓練にとどまった。しかし天災はいつ起こるかかわからないので、もしもの時に子どもの生命を守り確実に保護者に引き渡すことが出来るように訓練を実施する。 • 引き続き、毎日園の施設や遊具の安全点検をしていくとともに、ケガやヒヤリハット等の記録をして、子どもが常に安全な環境で活動できるように努める。

6. 学校関係者の評価

- 職員が真摯に自己点検・評価に取り組んでいる様子が伺える。コロナ禍でも感染対策をしながら、いろんな努力をしてきて、運動会や園外保育、サンマパーティー、クリスマス、おもちつきなど、楽しい行事をしてもらったことを有り難く思っています。
- 今後も家庭との連携・情報交換を密にしながら、安心安全で楽しくなる環境を設定し、創造性・感受性を豊かにする教育保育を続けて欲しい。

7. 財務状況

公認会計士による監査では、適正に運営されていると認められている。